

**製品名: G $\alpha$  olf ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11865**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GNAL
別名	GNAL; Guanine nucleotide-binding protein G(olf) subunit alpha; Adenylate cyclase-stimulating G alpha protein; olfactory type
遺伝子 ID	2774.0
SwissProt ID	P38405
免疫原	抗血清はヒト GNAL 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

**背景**

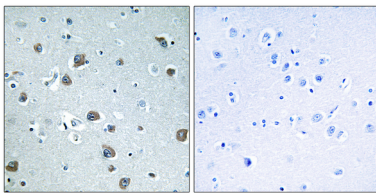
G タンパク質サブユニット  $\alpha$ L(GNAL) Homo sapiens この遺伝子は、嗅上皮における嗅覚シグナル伝達を媒介する刺激性 G タンパク

質αサブユニットをコードしています。このタンパク質は、ドーパミン1型受容体とアデノシンA2A受容体を結合し、中枢神経系で広く発現しています。この遺伝子の変異はジストニア25と関連付けられており、この遺伝子は双極性障害および統合失調症の感受性領域に位置しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2013年12月]、機能: グアニンヌクレオチド結合タンパク質(Gタンパク質)は、さまざまな膜貫通シグナル伝達系において、調節因子またはトランスドューサーとして関与しています。G(olf)αは、嗅神経上皮および基底核内でシグナル伝達を媒介します。視覚情報伝達の何らかの側面、および1つ以上のホルモン/神経伝達物質の効果の媒介に関与している可能性がある。類似性: G-αファミリーに属する。G(s)サブファミリー。サブユニット: Gタンパク質は、α、β、γの3つのユニットから構成される。α鎖にはグアニンヌクレオチド結合部位が含まれる。組織特異性: 嗅神経上皮、脳、精巣で検出され、網膜、肺胞、脾臓でも少量検出された。腎臓、副腎、肝臓にも微量に認められた。検査したすべてのインスリノーマで発現が確認された。

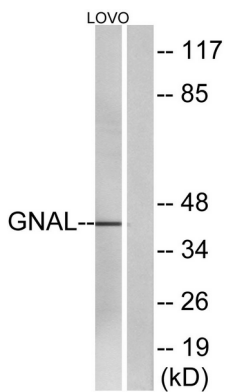
## 研究分野

カルシウム;嗅覚伝達;

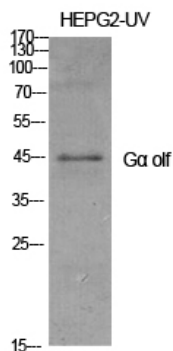
## 画像データ



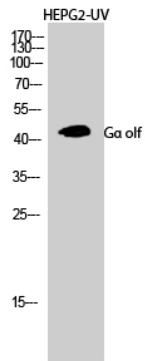
GNAL抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GNAL抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000に希釈したGα olfポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 希釈の Gα olf ポリクローナル抗体を用いた HEPG2-UV 細胞のウェスタンブロット解析